

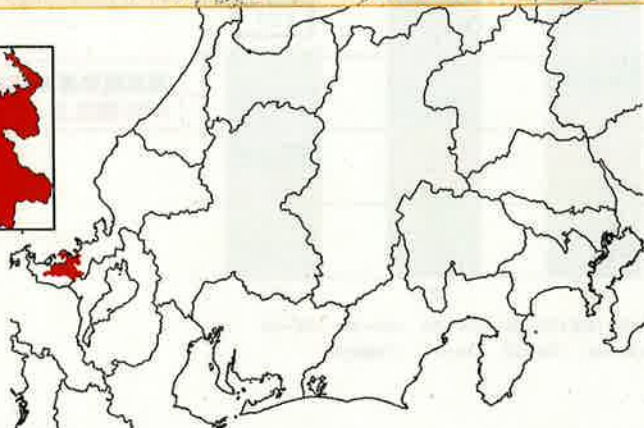
小浜市の水産業について

平成31年3月
小浜市農林水産課

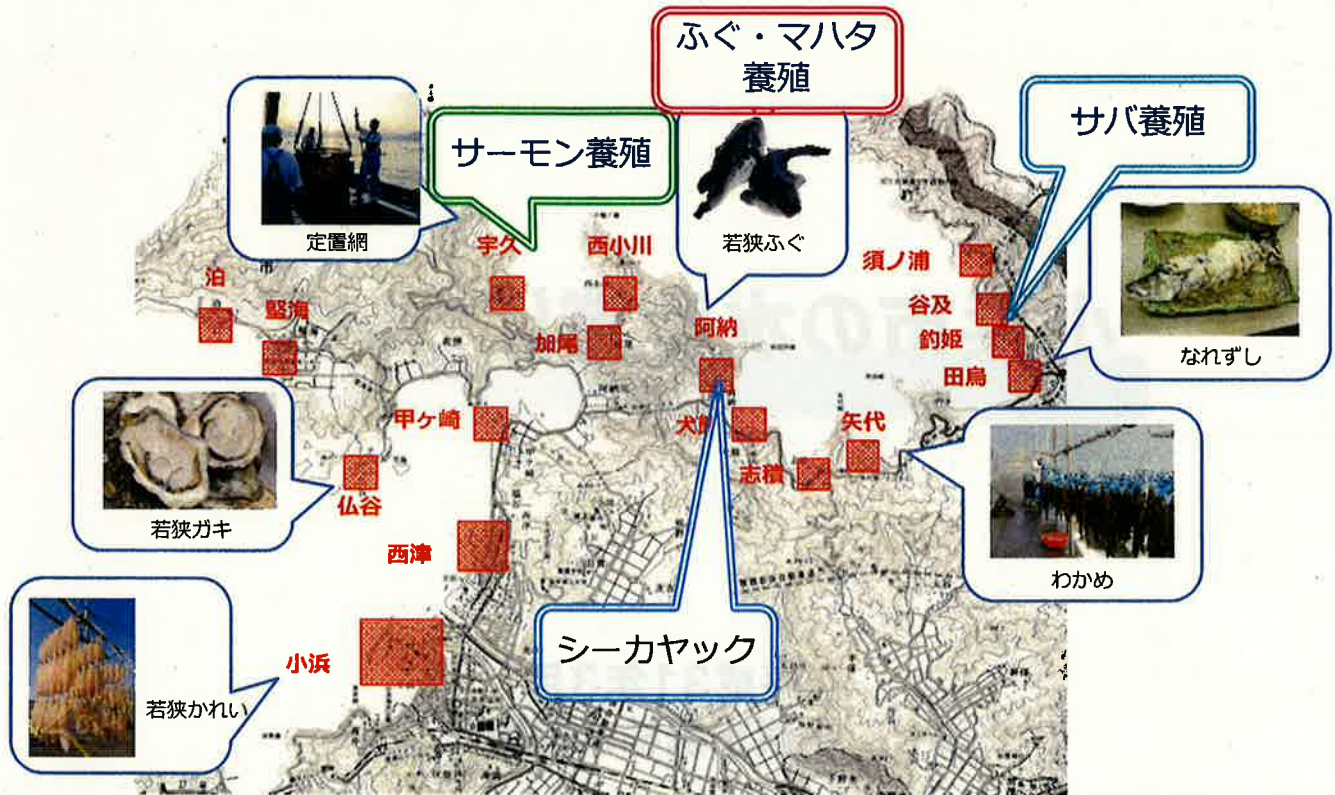
小浜市について



- ・ 人口：29,003人（平成31年2月28日現在）
- ・ 面積：232.87 km²（うち森林面積183.58km²）
- ・ 耕地面積：1,440ha
- ・ 福井県南西部、若狭のほぼ中央に位置
- ・ かつては朝廷に塩や海産物を献上していた「御食国」で、京都へとつながる「鯖街道」の起点。そのような歴史を背景に「食のまちづくり」を推進。
- ・ ほぼ全域が中山間地域であり、**農林水産業が基幹産業の一つ。**

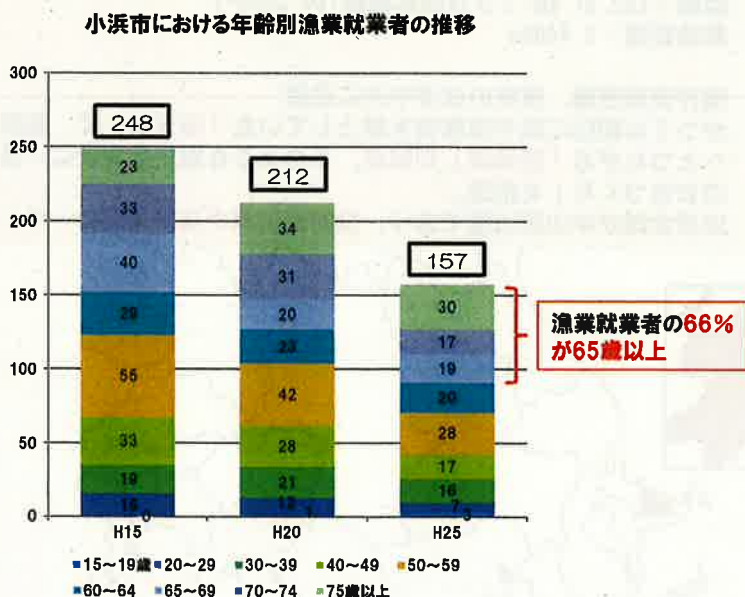


小浜の海辺の集落

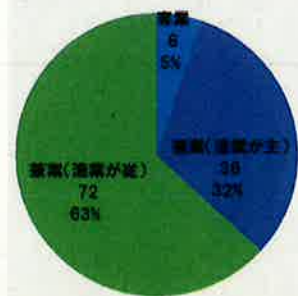


2

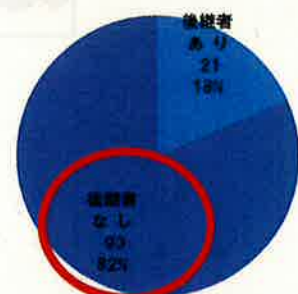
小浜市における漁業就業者の動向



専業・兼業別の漁業経営対数



漁業経営体の後継者の有無



資料:漁業センサス(2013)を基に作成。

3

小浜市の漁業量の推移



資料：福井農林水産統計年報を基に作成

小浜市の施策 ～魚で小浜に人を呼ぶ～

ブルーパーク阿納の取組み ～食を通して「生きる力」を学ぶ～



釣り体験



魚捌き体験



養殖生簀網替え

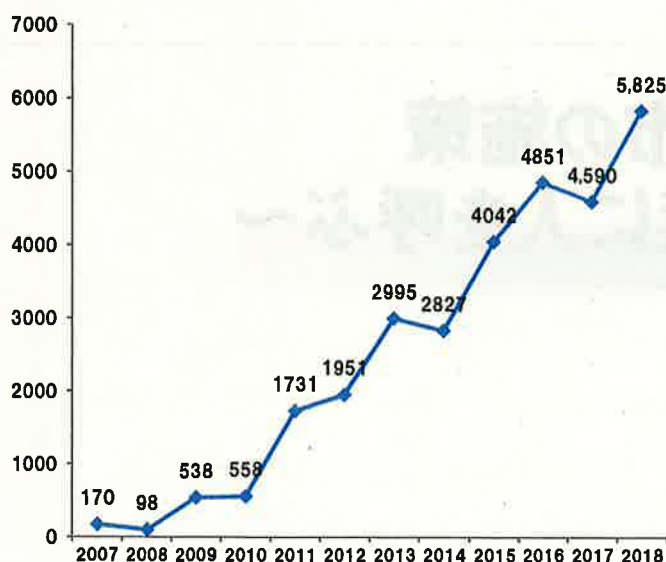


シーカヤック

6

ブルーパーク阿納の取組み

(人) 【体験受入数】



資料：阿納体験民宿組合提供

【近年の受賞歴】

- ◆ 平成29年度 第15回 オーライ!ニッポン大賞(大賞)
- ◆ 平成30年度 ディスカバー農山漁村の宝(第5回選定)【内閣府・農林水産省】
- ◆ 平成30年度 ふるさとづくり大賞(優秀賞)【総務省】
- ◆ 平成30年度 FBCかがやき基金(かがやき大賞)

7

かつて、小浜に鯖の群れが押し寄せた



8

小浜に根付く「鯖文化」



焼き鯖寿司



浜焼き鯖



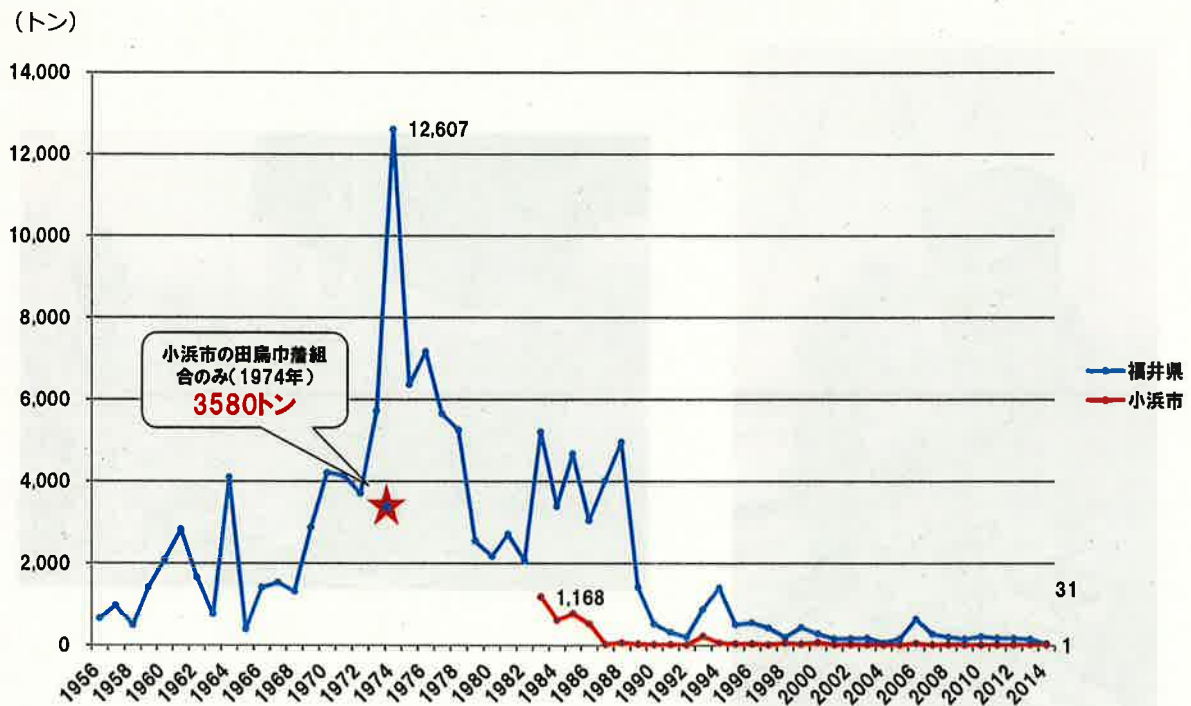
へしこ



へしこのなれずし

9

サバ漁獲量の推移



10



鯖、復活

<コンセプト>

観光客をターゲットとして、鯖街道のストーリーとともに、
刺身でも食べられる美味しい小浜の鯖を安定供給

11

鯖の養殖、はじめました。

鯖の稚魚の放流 @田烏・釣姫



平成28年度 1,000尾養殖

平成29年度 8,000尾養殖

平成30年度10,000尾に拡大

12

小浜よっぱらいサバ

【ぐるなび調査 全国ブランド鯖認知度ランキング】

養殖部門 2 位



餌に鯖街道で繋がる京都の酒蔵で製造された「酒粕」を混ぜて給餌。



・栄養をたっぷり含んだ酒粕を餌に混ぜることで、成長が良く、脂質含量についても増加するという試験結果。

・酒粕を混ぜることにより、身の臭みがなく、脂が程良く乗り、甘みのある鯖となっています。

・食味試験では9名中8名が酒粕入りの鯖が美味しいと評価するという結果が得られています。

13

新幹線で小浜が京都・関西へとつながった
とき、小浜はどう在るべきか？

かつての小浜は**御食国**
(食料の供給・加工拠点)

これからの小浜は**美食国**
(行って食べたい、深く知りたい、愉しみたい場所)
を目指すべき

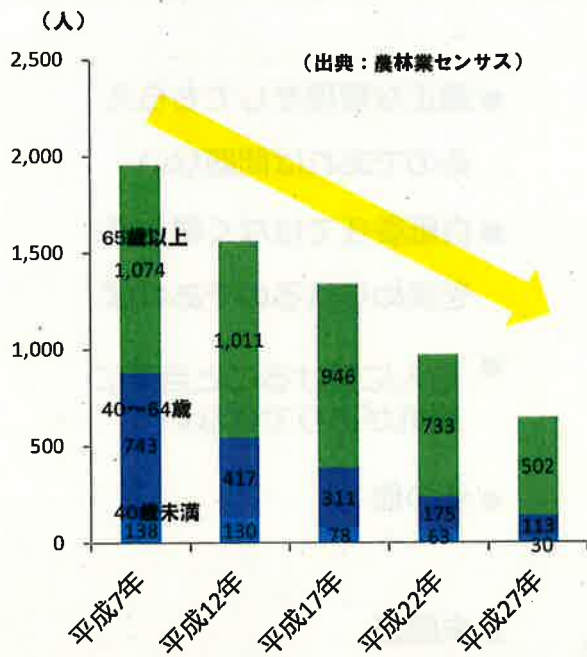
14

小浜市の農業について

15

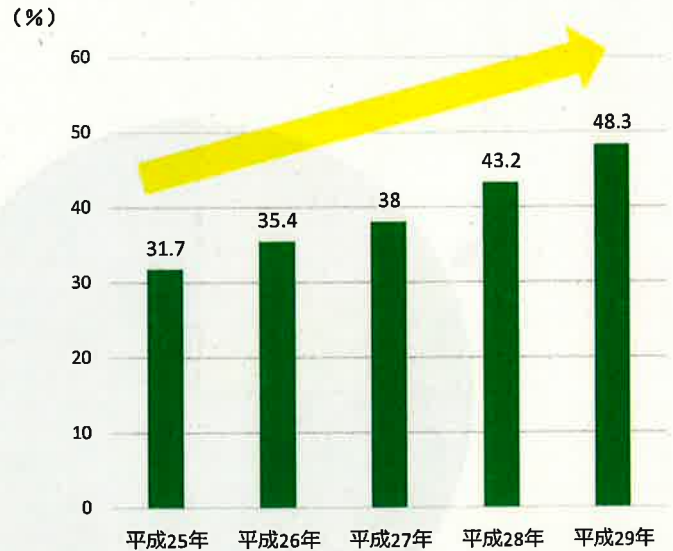
小浜市の農業について

①年齢別農業就業人口の推移



農業就業人口の75%以上が65歳以上

②担い手への農地集積率

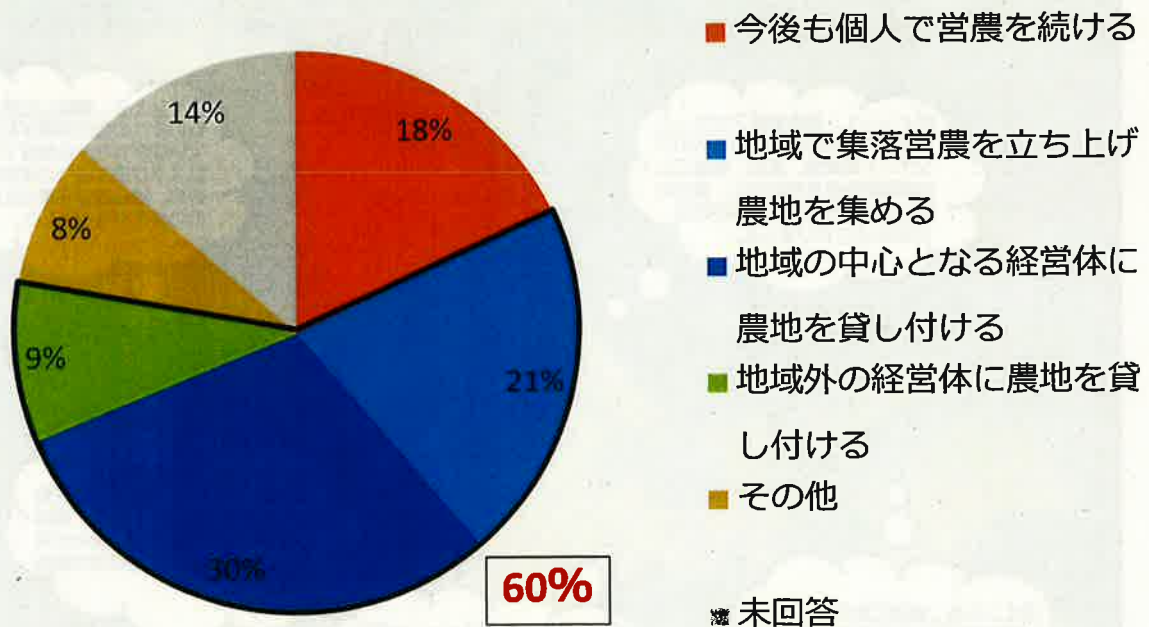


地域の担い手が離農者の農地の受け皿となり、農地の集積が進展。

16

アンケート結果から明らかになったこと①

「集落において5年後も安心して農業を続けられるようにするには、今後どうしたらよいと思うか」

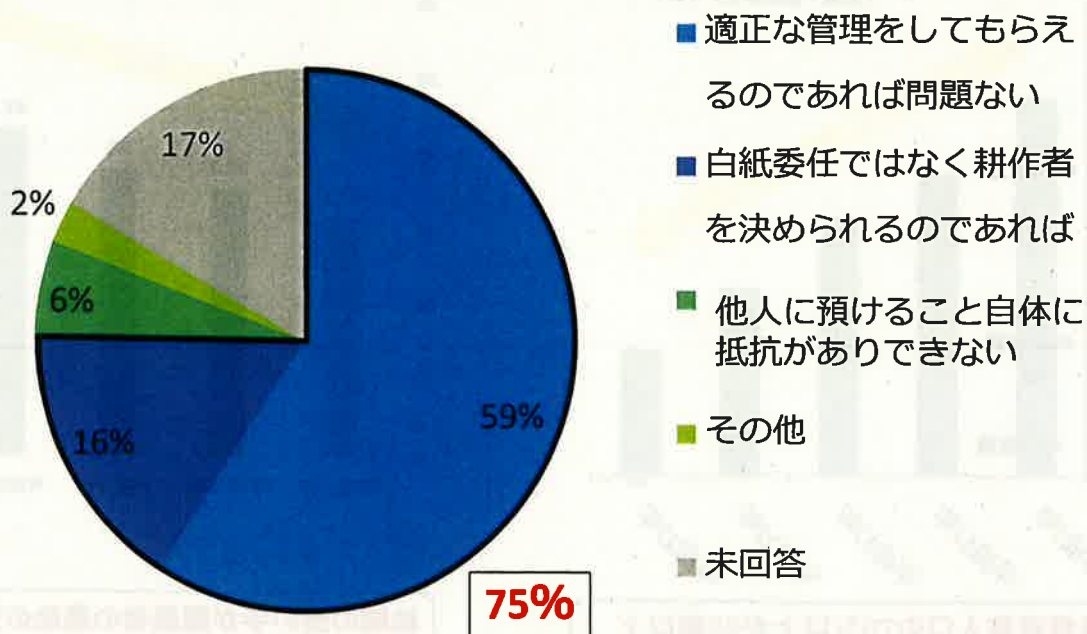


→多くの方が担い手に農地を集積し、地域ぐるみで農地を守っていくことが必要だと考えている。

17

アンケート結果から明らかになったこと②

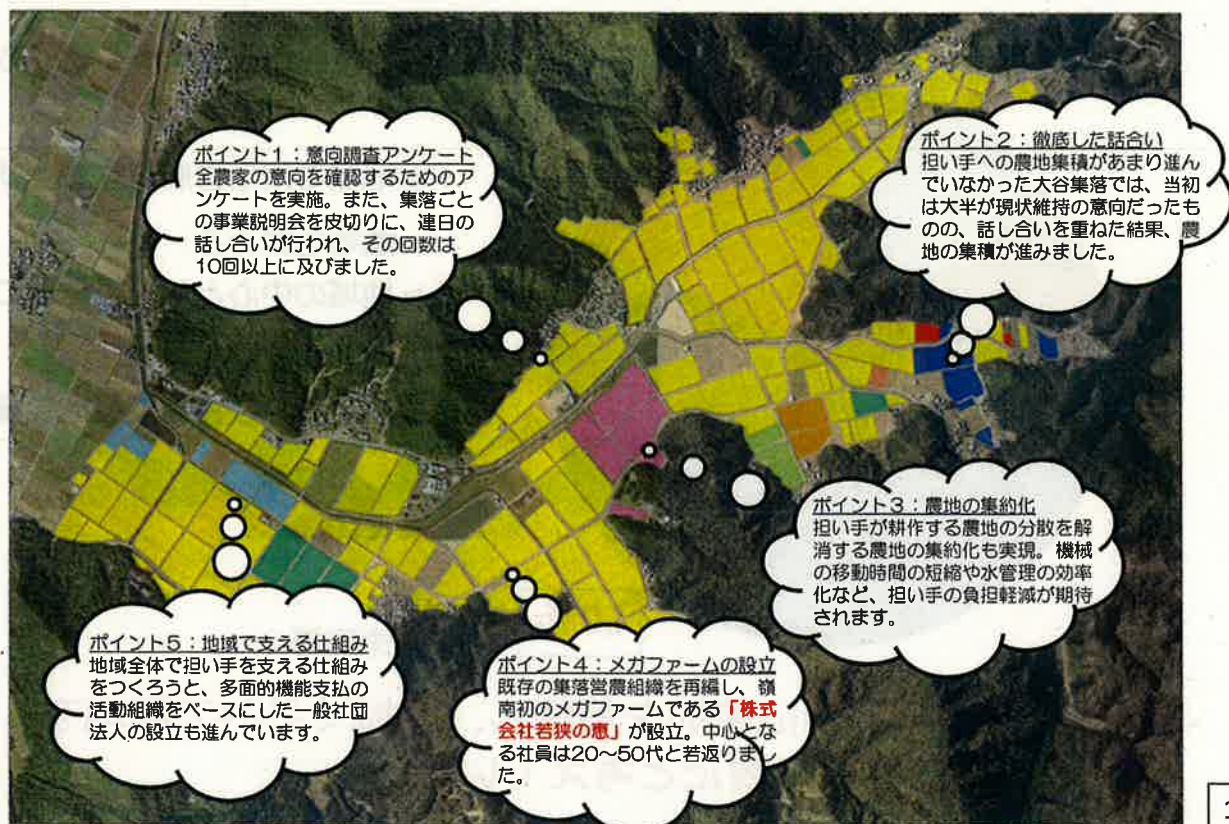
「他の農業者に農地を預けることについてどう思うか」



→農地を貸し出すことに対する抵抗感は弱まりつつある。

18

宮川地区における農地集積のポイント



19

宮川地区における 地域と担い手の連携のあり方 【二階建て方式】

担い手法人 【株式会社若狭の恵】	【農業生産活動の実践組織】 （営利部門） - 農地中間管理機構を通じて農地を借り受け、水稲・園芸作物等の経営 - 農作業の受託 - 食品加工、製造、販売 - イベントの企画、運営 等
地域資源管理法人 【一般社団法人 宮川グリーンネットワーク】	【地域の農地の管理】 （非営利部門） - 非農家を含めた地域住民全体で構成 - 地域一体で担い手の営農活動を支える - 農地・農業用水等の地域資源の保全及び質的向上を図る（多面的機能支払交付金を活用） - 農業と生活環境との調和および整備を図る事業 - 農作業の受委託 等

20

宮川地区の農地維持保全活動の取り組みが 農林水産大臣賞の表彰を受けました

（H29.10.19福井新聞記事）

宮川グリーンネットワーク（小沢）
営農支援で農水大臣賞

農林水産大臣賞の受賞が決まった宮川グリーンネットワークの河原勝代表理事（右から2人目）ら関係者＝小浜市加茂

本年度の「豊かなむらづくり全国表彰事業」で農林水産省は18日、大賞に小浜市宮川地区の一般社団法人「宮川グリーンネットワーク」河原勝代表理事を選定した。地区内四つの生産組織の農地を集約・集約化し、住民一体型の公益組織として、営農支援と農地保全に取り組む体制を築いた点が評価された。

県内の団体が大臣賞に選ばれたのは2009年度以来。同表彰事業は外部委員が選考し、大臣賞は三賞（天皇杯・内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会賞）に次ぐ賞。北陸農政局管内では推薦のあった4件中、最優秀となった。同ネットワークは高齢化や

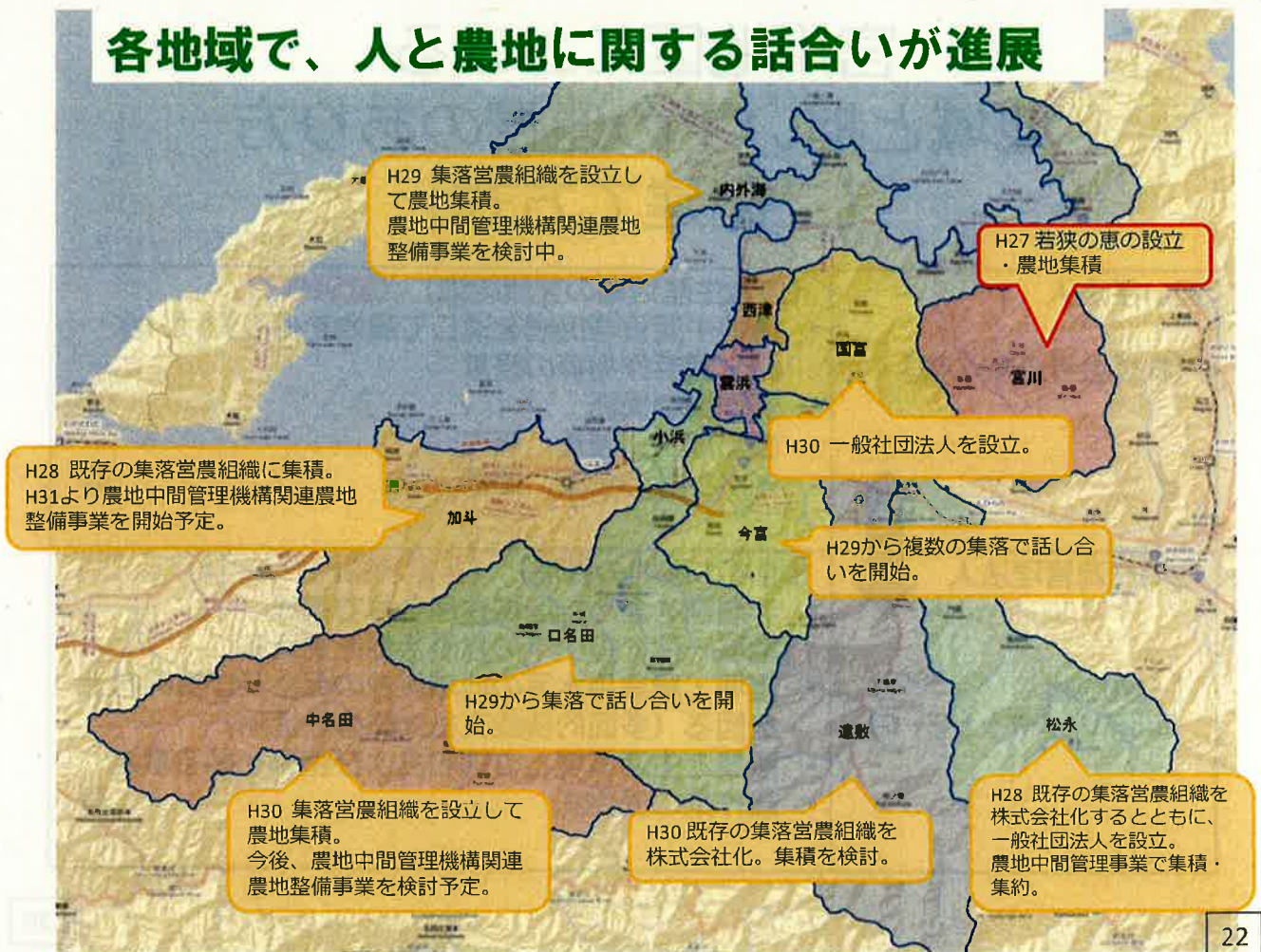
担い手不足への対策と農地保全を目的に、地区内の全世帯と関係団体が16年2月に設立。地区内でメガファームを運営する株式会社「若狭の恵」が水稲や野菜などの農業生産に専念できるよう、登録した営農サポーターに依頼して農地の草刈りや水管理などを担う体制を整えた。

同ネットワークや土地改良区による公益部門、メガファームによる営利・営農部門の役割を明確に分けることで効果的な体制を築く一方、地区性を挙げてコミュニティの活性化につなげている。

同ネットワークの河原代表理事は「一地区全体が協力して築き上げた取り組みが評価されたい」と話している。表彰式は11月16日、金沢市の北陸農政局で行われる。（前田 卓）

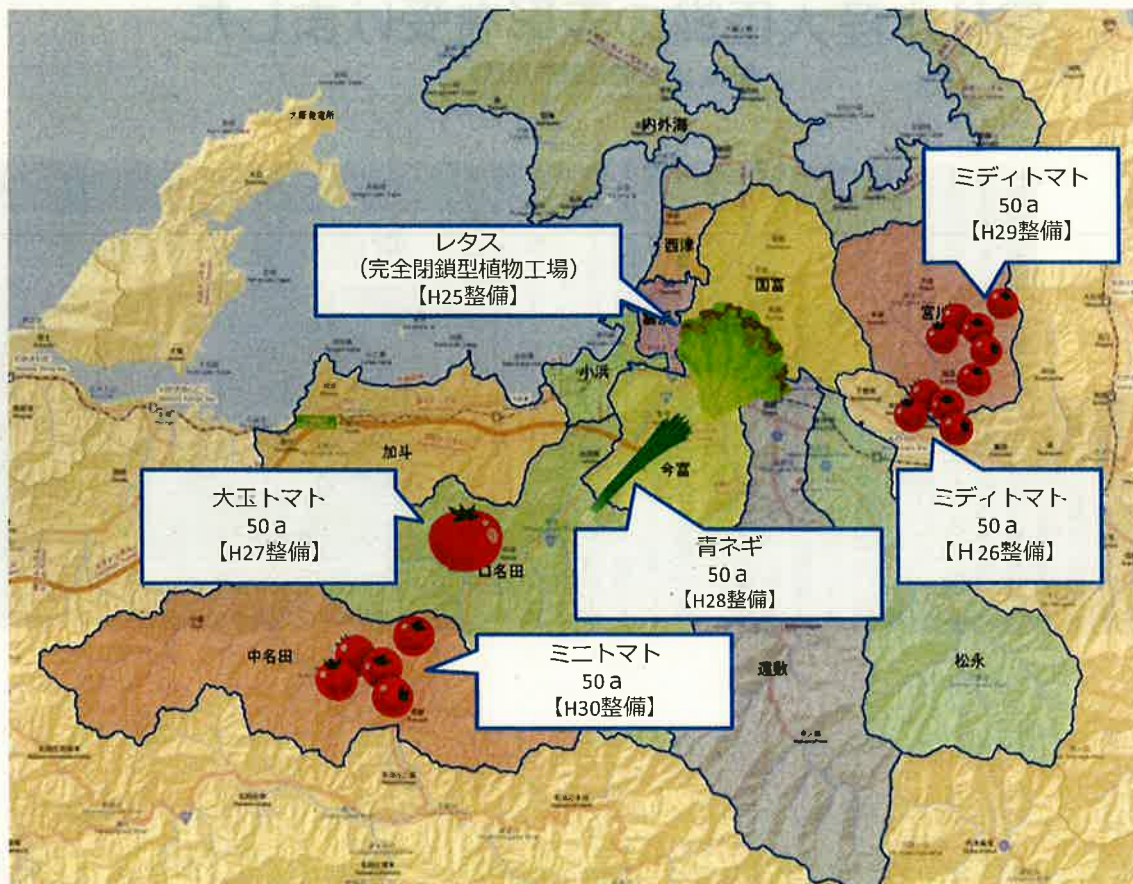
21

各地域で、人と農地に関する話合いが進展



22

近年、先進的な大規模施設園芸が展開



23